

令和6年度第3回自然に健康になれる環境づくりの推進に関する検討会議事録

1 日 時 令和7年2月26日（水） 午前10時から12時まで

2 場 所 千葉県庁南庁舎9階会議室

3 出席者等 委員5名、事務局8名 計13名

4 議 題

報告事項

令和6年度事業実施結果について

協議事項

既存事業のブラッシュアップについて

令和7年度の実施計画（案）について

5 結果概要

報告事項

令和6年度事業実施結果について

（活用できるデータベースの活用）

・生活習慣に関するアンケートの情報と国保の特定健診などの情報をつなぐとよいのではないかな。同じ建物の中にいる人たちが扱っている情報なので、横連携をさせて分析するとよいのではないかな。おそらくDXというのはそういうものに繋がってくる。持っている情報をリンクさせて、デジタル化して、それを分析して政策に生かすというところまでなのだと思う。そういう意味では、今の国の方向性でもあるし、それを県が分析すると市町村側は助かるのではないかな。

（部局横断的な連携／市町村国保における自然に健康になれる環境づくりに関する取組への県交付金による支援）

・国保の保険者と、自然に健康になれる環境づくりがコラボしたということが、非常に素晴らしい。
・新たに設けた項目3つとも運動に関することになっているので、運動だけではなく、栄養などの選択肢を増やしていかないと取組は広がらないのではないかな。自然に健康になれる環境づくりは、歩くことや運動することばかりという誤解をされてしまうので、そうではないということも示してほしい。市町村が取り組みをはじめるとっかかりとしては一番わかりやすいところから始めたという感じはある。
・2024年4月から第四期特定健診・特定保健指導が始まっているということで、今までの健診保健指導プログラムも改定された。健康日本21(第三次)に合わせて、環境づくりと連携して特定保健指導を進めていくべきだということが新たに追記されている。加えて、特定保健指導のアウトカム評価を重視するということで、腹囲2センチ、体重2kgという明確なアウトカム評価が追加されたのに伴い、それだけではやはりハードルが高いので、その手前の行動変容の部分で、食行動とか禁煙とか身体活動・運動というところも、目標を立てて、継続できた人にはポイントを付加するということも評価されるようになってきている。そういう意味では、各保険者は国保も含めてだが、禁煙対策とか食環境整備というところも、特定保健指導と絡めて進めていくようになり始めている。ぜひこれを機に、今後この項目に、例えば千葉県の健康ちば協力店の店舗数がいくつだったら何ポイントとか。また、禁煙の活動をしているところは何ポイントのように、栄養や禁煙というところも今後加えていっていただくとよいのではないかな。そのようなことができると他部署との有機的な連携で、より効果的に進められるのではないかと感じたので検討願いたい。
・国保との取組は大変素晴らしいと思った。他部局の連携がパッケージの中で行われるということが、やはり自然に健康になれる環境づくりにはとても重要だと考えている。例えば今デジタル庁が、地

域幸福度指標というものを打ち出した。各自治体、独自でデータを取得して、アップロードして、その自治体の中の様々な視点で、ウェルビーイングとか幸福とか、もちろん健康というのものもあるが、そういったものを考えていくという取り組みを推進している。そのようなものが入ってきてもいいのではないか。デジタル庁が推進している地域幸福指標の活用を積極的に行っていると、その保険者は市町村の中のような視点でそういうデータを取得して、それがウェルビーイングにどう繋がるかとか、健康にどう繋がるかということを考えることになる。一部の千葉県内の自治体で進めているところもある。必ずしも大規模な自治体だけが取り組めるという事業でもなく、規模の小さい市町村でも取り組める事業である。

- ・人口規模が大きな市であれば、このような交付金というのもよいのではないかと思うが、人口規模が小さな市では該当しないのではないかと感じる。例えば階段利用の項目についても、大きな建物であれば階段があるが、当町の庁舎は2階建て。そのため、階段の利用と言っても少しあがるだけであり階段利用を誘導するまでもない。もともと庁舎内では階段を使っているし、エレベーターを使うのは足の悪い人という感覚。規模の小さい市町村でもできる工夫があればいいと感じた。

- ・他部署との連携を促したいという意図と、そういう意識を持つように誘導するという意味でいうと、2階建てでも十分効果的な部分もあるのでないか。このねらいは、実際にやっていただくということもあるが、健康というのを担っている部門と、建設的なものを行っている部門がコミュニケーションをとって欲しいということが核となるのではないか。もうそこに向かっていきますということでインセンティブをつけたというように理解した。

- ・階段利用を促すための表示等によりと記載があることによって、何かそういう情報を出すとか、ポスターを張るとか、「運動しましょう」のような啓発をする方向に重点が置かれているように見えてしまっているのが気になった。既存のものにちょい足して身体活動や運動を乗っけるというような工夫や仕組みなど、そのようなことをしているところにはポイントをあげますという趣旨なのではないかと理解したので、そこがうまく伝わるようになってほしいのではないか。例えば防災訓練で、防災を担当する部署と健康を担当する部署でコラボして、防災訓練の時に、少し体を動かすというものを取り入れるとか。既存の、普段やっているようなルーティンのところに、プラスアルファ、身体活動の要素も取り入れるというようなものであればハードルが高くなく、自治体の規模にもよらず、工夫できるところだという意味で載せているということが伝わればよいのではないかと感じた。

- ・市町村の方の意見も聞いてもらおうとよいのではないか。

- ・文言が変わるだけでも印象が変わるし、受け入れやすくなるので検討いただきたい。

- ・ウォーキングコースという項目もあったが、実は結構市町村ではいいコースを持っていて、役所の人気付いていなくても、住民の方がここすごく歩きやすくていいというのは多分結構ある。病院で外来をやっているの、患者さんに、実はうちの近所にすごくいいコースがあるという話を教えてもらう。例えば高齢者でもスマホを使うので、そういった情報を送ってもらって、実は隠れたいいコースがあるというのを吸い上げていただくとか。お願いしたいのは実はそこから先なのだが、もしそういう情報があれば、ぜひクリニックや病院にも情報を流してほしい。そうすると例えばAさんの近所にはこんなものがありますよと言える。予防というよりは、むしろ保険の圧縮に繋がるかもしれないが、そういった情報は、知っている人は知っているけど、知らない人は知らない。知らないとは歩けないし、活用できないのではないかと思う。ウォーキングコースの周知という意味では、広く広報とかホームページとかで案内をしますということだけではなくて、対象がいそうな場所に情報を流すというようなこともしていただけるとよいのではないか。歴史的に良い場所を設定するというのもあると思うが、近所にいい場所がありますよというのは、あまり大きくない市町村の方が、コミュニケーションをとって情報を集めやすくて良いのではないか。近所の人から聞いたというような内容でもよいと思う。そのようなことをすると広がりが出てくるのではないか。

協議事項

既存事業のブラッシュアップについて

(健康ちば協力店推進事業)

・(野菜たっぷりの項目でチェーン店の登録を新規で受けたとのことについて)いずれ塩もぜひというところ。やはり野菜が多くなるとどうしても、その分、調味料も多く使って塩分も多くなってしまいやすい。その辺りも注意していただきながら、せっかくやる気になってくださっているのです、そこをそこねないようにと思う。こっそり減塩などを含めて、塩の方も少しずつ誘導していただけたらいいのではないかな。

・保健所から給食施設を有する事業所に対する働きかけを強化することについて、確かにそれも重要だが、やはり保健所にいる職員はマンパワー的にかかなり限られている中で、今までより精力的にやれるかという限界があると思う。例えば、今回この階段利用を促すチラシを、中小規模事業所の加入が多い保険者に周知されたとのこと。この繋がりを生かし、その保険者は、確か独自に健康経営の認証制度をやられていると思うので、健康宣言をされているような、意識が高い事業所を優先的に声掛けして、その事業所が契約している弁当業者などに対し取組をしませんかというような周知をすることも考えると、より効率的にやれるのではないかな。

・新しく作成する健康ちば協力店のチラシは、可能であれば、減塩という言葉はとてネガティブに受けとられるので、「適塩」とかはどうか。自分が関わっている事業所とか社員食堂で減塩メニューという、どうしても従業員は美味しくなさそうとか、満足度が下がるというようなイメージになりやすい。適塩という少し和らぐ。しょっぱくない、ちょうどいい味なのかなという感覚。適塩メニューでお店をアピールしませんかという形にすれば、例えば 3 グラムというハードルが高くても、少し味付けを調整してもらえとかそういう微調整も含めた対応が可能という場合にも使えるようになるのではないかな。

・適塩は、知られているというか、最近使われ始めている。厚生労働省は減塩ということも使いたくないと言っている。常に公的なものから減塩という言葉は抜いている。食塩摂取量の低減とか少し硬い感じではあるが。一般の方のイメージもあまりよくないというところで減塩という言葉はさけ始めている。例えばある食品会社では、スマートソルト、スマソルというような、おしゃれな感じにしたり、減塩という言葉を使わない方向で、かつ前向きにやってもらいやすいような言葉が重視されている。適塩でなくてもいいが、減塩は避けたほうがよいのではないかな。

・文字の印象として減塩という、減るという文字が、ネガティブなイメージがあるのではないかな。

・減塩というと何か我慢しなくてはいけないという印象。

・健康ちば協力店のロゴマークは減塩ではなく、食塩控えめという文字になっているので、減塩でなくてもよいのではないかな。

・目を引くという意味では、おや？と思わせることも手である。これ何だろうと思わせるといい。人間は見慣れているものよりも、みたことのない言葉のほうが目を引くのではないかな。

・新しく作成する健康ちば協力店のチラシは、計量スプーンの絵の黄色が少し薄いので、わかりにくいと感じた。

・(健康ちば協力店について、ショッピングモールの運営会社からフードコートに入っているそれぞれの店舗にお願いのような形で登録の依頼をかけられるというものであるということ、また SDGs や食べ残しを減らすというような県庁部署との取組に協力していた経緯があって、健康ちば協力店も一緒に連携できないかという話をもらったとのことについて) 他部署とのコラボが先にあって、こちらの部署にも波及してということで、これも県庁内の部局が重なっていてよいのではないかな。

協議事項

既存事業のブラッシュアップについて

(受動喫煙対策促進事業)

- ・(禁煙週間キャンペーンを喫煙率が高い地域での開催を検討しているとのことについて)その圏域は、たばこを吸っている人が多いということだが、脳梗塞や肺気腫などもこのあたりの人は多いのか。せっかくそのようなことをやるのであれば、そのようなデータも結び付けると説得力があるのではないか。
- ・必ずしもそうではないが、心筋梗塞などの関連する健康障害がある。あわせて、その地域として考えたときに、地域をよくしませんかとうような言い方もできるのではないか。ぜひ、色々なところと今連携されているようなので、そういう、データを持っているところと相談していただくのがよいのではないか。
- ・さきほどの県交付金の項目の話も含めると、公共の場で、喫煙自体を市町村レベルで抑えているところに何ポイントかをあげるということもよいのではないか。積極的にやっていることを評価してあげてもよいし、それも受動喫煙対策ではないか。1つの政策が、様々に波及効果があるということの方がよいのではないか。ねらいはここだけど、実はここにも波及していて、実はあそこにも波及しているというのがあるとい。例えば、ある部署が清掃や美化をやっている。でも別部署でもそれは役に立つよねというように相乗りさせてというような感じがよいのではないか。そのように取り組めば、うちにもいい影響があるかもしれないと思う。隣が何をやっているかを知っていれば、何かあれば協力するよと言ってあげられるのではないか。全然知らなかったらわからないが。
- ・やりなさいというよりは、やりたくなるようにしたほうがよいのではないか。
- ・やっている事業を違う目で見ると、色々な効用があったり、逆に利用できたりする。
- ・子供が通学している場所ではタバコを吸ってほしくないともあると思う。そのようなことも含めて、色々なところにあるものを利用できるとよいのではないか。
- ・いわゆる首長自身や議員が喫煙者の場合が非常に多い。ある国の委員会の先生が仰っていた話で、そもそも首長自身が喫煙者である場合、もうタバコはもうやめられないと思い込んでいることが多い。禁煙パッチを使えば治療してやめられますよというように促して、まず首長自身に禁煙してもらったことで、その地域に禁煙が広がったという事例を聞いた。担当者の研修も重要だが、意外と意思決定者のところで止まってしまうという場合も多いと聞いている。意思決定者に対して、働きかけるような取り組みというのも必要ではないか。
- ・前回検討会では、教育について色々とコメントが出た。令和7年度の取り組みの方向性は、教育については長期的に検討していくという形になっているが、健康ちば21(第3次)でも、たばこを吸いはじめた年齢などが記載されている。これからの人材にお金を使って、できるだけ若者が吸わないように、そこにお金をかけていくほうが、長期的に見るとよいのではないか。何が本当に一番有効なのかはわからないが、そのあたりは情報を色々と調べていただいて検討してほしい。
- ・逆説的かもしれないが、路上に喫煙所がある場合、路上に喫煙所があるということが逆に、吸うのはここだけというように受動喫煙を回避しているのではないか。タバコを吸っていい場所ですよというイメージを強調しているのではなくて、吸えるのはここなので、そうでないところでは吸わないでくださいというもの。受動喫煙を迷惑する人もいるし、一部は喫煙者の権利ということもある。喫煙スペースを設けるということになると、吸うことを助長しているのではないかと思ってしまうが、そうではないという考え方もあるのではないか。
- ・スペースが限られていれば受動喫煙を受けないということになる。

協議事項

令和7年度の実施計画（案）について （全体）

- ・今年度の取組では、イメージしていた以上に、色々なところで繋がりが広がっているのではないかな。随分広がっているんで、この勢いがもう少し続いていけばさらに広がるのではないかな。
- ・チーバくんのキャラクターで、自然に健康になれる環境づくりのものがあってもよいのではないかな。それに関係する取組には、そのチーバくんを使うなど、そのキャラクターが現れると、あの取組ねと認識できるようなものがあるとよいのではないかな。ただし、著作権などもあるので、新たに作るのが難しいということであれば、既存のチーバくんを固定でつかっていくということでもよいのではないかな。

（検討会）

- ・令和7年度から、つながりに関する分野の専門家をメンバーに加えるということだが、つながりというと、人と人はつながることによって健康になると言われているし、次年度からメンバーに加えるということは、そこにもフォーカスしていこうということだと思う。
- ・（次年度につなかりに関する分野の専門家をメンバーに加えるということについて）住民レベルでのつながりも健康にももちろんよいし、行政が提供するサービスをよりよいものにしていく上での行政の中でのつながりとか、あとは民間事業者など。あらゆるところにつなかりが必要になると思う。
- ・つながりと言うとイメージがつきににくいかもしれないが、人と人とがつながるといのは、孤立してないということ。孤立してない、逆に孤立すること自体が健康に好ましくない。孤独が好ましくないといのはよく言われているので、そういった意味では孤立の反対側として、つながりをもつということを促すことが、健康なのではないかな。逆にそのつながりが、孤立しないような場面を設定するという意味では、例えば、一緒に運動する場を作るとか、あるいは、高齢者の食事の場とか、すでにもう何か取り組まれているかもしれないがそういうことが該当するのではないかな。そういうことも含めて今後は地域の中でつながる場所があるということ自体が、その地域自体を健康にしておくことにつながるのではないかな。次年度は、そのようなことに詳しい人を追加しようとしていると捉えている。例えばまちづくりとかのハード面に加えて、ソフト面もということではないかと理解している。
- ・市町村では、地域支援や介護予防事業などで、高齢者の配食サービスや、みんなで一緒に食べてそのあとに簡単な体操をやるというような取り組みはすでに広がってきている。その中で、それらをどうつなげていくかというような視点と理解した。
- ・どうしても高齢者に目がいくが、子供達も孤立している子もいるし、子供を産んだばかりの母親が外に出かけられないということや産後うつなどもそうなのではないかな。そういう意味では、全世代を対象にするということも今後検討できるといいのではないかな。仕事に復帰してしまえばよいとは思いますが、例えば一緒に産院で産んだママ友とか、周りが先に仕事に戻ってしまっということもあるかもしれない。そういうところも含めてつながりということを考えていかないといけない。

（活用できるデータベースの作成）

- ・生活習慣に関するアンケート調査データのオープン化を検討いただきたい。一番いいのは個人の特定ができない個人データ。もちろん、それが難しくても報告書で集計されている範囲（2次医療圏）ごとの集計結果などを、エクセルや CSV など活用できる形で公開をしていくというのがよいのではないかな。日本全体でもオープンデータ化というのは重要である。
- ・2次医療圏ごとに、特定のテーマについて見える化をして、自治体の中でデータを扱おうという時に、まずそれを転記しないといけなくなる。その手間をできるだけ減らしてほしい。データが細かければ細かほどいいのだが、個人情報問題などもでてくるとは思う。

(既存事業のブラッシュアップ／中食を活用した健康づくり提案事業)

・健康ちば協力店のところで、中小規模事業所の加入が多い保険者と協力をしてという話をした。規模が小さい事業所を対象としているので、社員食堂を設置しているところはほとんどないかもしれない。しかし宅配弁当など、いわゆる中食業者と契約しているところもあるのではないかな。健康経営に熱心な中小企業の事業所が契約している弁当業者に、健康的なメニューに変えてもらうとか。そのような入り方やアプローチの仕方はあると感じた。

(部局横断的な連携)

・階段利用を促すサイン(案)について(青色は千葉県カラーで、黄色は菜の花というイメージでということであるが)、本日の検討会会場である南庁舎の階段を歩いて上がってきたが、照明が消えているところがあったりと、何が書いてあるかわかりにくいという印象をもった。色味をもう少しシンプaktある形にするとよいのではないかな。上手に工夫してほしい。

・診察室の番号などは、目の悪い人にもわかるように黒地に白字にする。そのようなコントラストのほが見やすいのではないかな。目が弱い人や、入ってくる光の量が少ない人などもある。そういうことも考慮されるとよいのではないかな。

・できれば小学生にも読めるものもいい。かつこいものもいいが、子供向けするようなものもいいのではないかな。

(その他／栄養や運動の取組に関すること)

・いま生成AIについては、ものすごい勢いがある。今取り組みの中にはそのようなものがない。「チーバくんに教えて」というだけで、たくさんの情報が出てくるとか。そういう利用の仕方もあるのではないかな。もっと手軽に、気軽に、情報にアクセスできるとよい。例えば、スマホで、今いる場所で「散歩によいところを教えて」というと、地域の散歩コースなどの情報がすぐにでてくるなど。それも環境づくりのひとつなのではないかな。

・この取り組みの中に入れていくということ自体も大切だし、色々な部署が連携しないと成功しないので、そういう面での横の広がりがあるといい。この取り組みの中にそういうコンセプトがあるといいのではないかな。例えば、今だと写真を撮ると、これが何カロリーかということを返してくるものもある。そのような形で、健康づくりに関する取り組みを、色々な部署と連携してできるとよいのではないかな。

・チーバくん何々教えてというフレーズで聞くと、チーバくんが答えてくれるという形になるとよいのではないかな。それを流行らせてしまうということもよいのではないかな。

・チーバくんが答えてくれれば千葉県庁に親しみがわくかもしれない。